

潮見峠と北郡越(中辺路)

絵と文・熱田親憲

題字・熱田泰華

熊野古道

みちのく記

53

世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に昨年10月、追加登録された潮見峠に通じる

長尾坂を前々回楽しんだ。今回は富田川河谷ルートの北郡越えと潮見峠の踏破を試みた。南紀田辺インターチェンジ(ICC)から下三

八上王子跡の八上神社を参拝。西行の「待ちきつる八上の櫻さきにけり荒く下ろすな三栖の山風」の歌碑がコケ

かぐぐる。山手寄りの窪地には道祖神と庚申塔が祀られていた。祠にはミカンが供えられ、古道は今も村人

パネルが載っていた。自然力を活用した省エネ、省資源の施設に世に

で伊勢詣でから熊野詣で、西国巡礼を目指す人にとっては久しぶり

の背後には、神木ともいえるような巨木が800年の歴史を刻んでおり文化遺産の重み充分である。

清姫の墓を左手に見て、右手に滝尻王子をおもいながら鍛冶屋川の視橋に着く。橋のたもとに目をやると、天

手前に視橋を示す表示があり、この潮見峠が下三栖、長尾坂、拾木峠、槇山から上がった峠となる。私は、長尾

従って潮見峠は、参詣者が難所を登り切った達成感と海が一望できる解放感を、共に喜びあえる広場といえよう。峠茶屋の「汐見屋」は今でいう人気の民宿であったに違いない。

人間の営みの歴史

下屋敷、左手に鮎川王子を見て、のこし橋に着く。富田川を渡ると北郡越の入口。この道は北郡峠を越えて滝尻王子に至る古道で、10世紀後半から13世紀にかけて皇族・貴族が熊

野参詣に使ったルートだ。富田川沿いに梅が咲き始め、清流の音に導かれて浅瀬沿いの古道に入ると、うっそう

とした竹やぶをいくつもの、屋根に太陽光

村人にとっての潮見峠は、三栖の郷を豊臣軍から守った守護神の山城だったと言えよう。潮見峠がこんな役割を果たせたのも、峠と峠を結ぶ林道が生活道として拓かれたからである。古道の変遷は人間の営みの歴史そのものと言えよう。

道祖神と庚申さんが祀られた北郡越の古道(田辺市中辺路町)

八上社の櫻つぼみし
西行碑 泰華